

研究・調査報告書

報告書番号	担当
390	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
A longitudinal study of Alcohol Use and Antisocial Behaviour in young people 若年者における飲酒と反社会行動の縦断的検討	
執筆者	
Robert Young, Helen Seeting and Patrick West	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol and Alcoholism 43 204-214,2008	
キーワード	
若年者、飲酒、反社会行動、縦断的検討	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>若年者の反社会的行動に及ぼす飲酒の長期的、短期的影響について、飲酒により反社会行動を引き起こしたと考えられる“脱抑制”なのか、反社会行動が飲酒を引き起こしたと考えられる“感受性”なのか、飲酒が反社会行動を引き起こした、もしくは反社会行動が飲酒を引き起こしたと考えられる“相互性”なのか検討する。そしてさらに、アルコールに起因する問題に関しても検討する。</p> <p>(方法)</p> <p>学生を対象とした West of Scotland 11-16 study の 11 歳 2586 人 (男性 1335 人、女性 1251 人) を対象に 5 年間追跡調査を行い、11 歳から 15 歳までの反社会的行動に及ぼす飲酒の長期的、短期的影響について、また 15 歳時のアルコールに起因する問題に関しても検討した。性別、社会的環境、アルコールの種類により検討した。</p> <p>(結果)</p> <p>結果、若年者の反社会的行動と飲酒の関係は反社会行動が飲酒を引き起こしたと考えられる“感受性”であると考えられた。その傾向は長期的検討で著明であった。飲酒により反社会行動を引き起こしたと考えられる“脱抑制”の傾向は認めなかった。しかし、短期的な検討では飲酒が反社会行動を引き起こした、もしくは反社会行動が飲酒を引き起こしたと考えられる“相互性”が認められた。</p> <p>(結論)</p> <p>若年者の反社会行動とは飲酒やアルコールに起因する問題の予測因子であった。そして飲酒が反社会的行動やアルコールに起因する問題に与える影響は短期的には軽度であった。</p>	